

令和元年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)
1 基本的な生活習慣の確立(挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底)	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (保護者) 97%	各学級、部活動、生徒会の挨拶運動などの取組が生徒の意識向上に繋がったと考えられる。運動部が積極的に挨拶してくれる影響も大きい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 96%	各学年、部活動、進路指導等で「みだしなみの大切さ」を根気よく指導した結果、生徒も意識してくれるようになったのではないかと。4月に行う「制服着こなしセミナー」も進路指導と絡めて継続していきたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均と比べて減少率が A 15%以上である。 B 10%以上である。 C 5%以上である。 D 5%未満である。	A 7月時点で過去5年間の平均値より19.0% (63件)の減少	過去5年平均と比較すれば少ない数字だが、昨年度の数字と比較するとやや多くなっている。近年、遅刻数については下げ止まりの感があるが、できるだけ、少ない数値をキープできるよう、これまで以上に意識の啓発等に取り組んでいきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	環境美化委員による清掃点検で「きれいに清掃されている」、「だいたいきれいに清掃されている」の合計が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 7月の環境美化委員の評価では95%	今年度から環境美化委員による清掃状況の点検に加えて、教職員による清掃点検も定期的に行っている。それにより、生徒と教職員、相互の清掃意欲向上につながりつつある。今後も活動を継続して行うことで、校内美化に対する意識向上を図り、学習活動に適した環境づくりにつなげていく。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 79%	人間関係に不安を感じている生徒が多く見られる。早期に発見し、継続して面談を行い解消できるようにしてきた。今後は、生徒への声かけをさらに行い、生徒が不安なく生活できるようにしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校生活に満足していない生徒が、20%余りいることは憂慮すべき点である。部活動やクラス活動、授業の場面で、人間関係等や学習面で悩める生徒を早期に発見し、個に応じた対応を適切に講じてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	小さな変化やサインを発見し、クラス担任をはじめ、部活動顧問、相談室(スクールカウンセラー)、保健室などが連携し、不安を感じている生徒に組織的に対処していく。教員間の連携、コミュニケーションを強化する。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、公開授業への参加、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 7月の生徒による授業評価では96%	授業アンケート項目『ペアやグループ学習を含め発言の機会が設けられている』に“よくあてはまる”と回答した生徒の割合が57.1%と、やや低い結果となっている。脳を活性化させ、生徒が活躍する場面が増えるように、今後も授業の工夫・改善をすすめていきたい。
	② 教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に1回以上授業見学を行った教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（教職員）93%	今年度も2週間の互見授業期間を3回設定して、授業力向上に努めている。他者の優れた実践を通じて、ICTの活用や協働的な学びの推進につながるように課としても取り組んでいきたい。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C 5月のスポーツテストの結果では63%	昨年度と比較し、D評価からC評価となった。体育の授業や部活動での体力向上の成果と考える。しかし、依然としてスポ科と総合学科の差や女子の体力低下があり、総合学科の女子生徒への体力アップが課題となる。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	—	最終集計で判断する
学校関係者評価委員会の評価	生徒の授業評価や授業アンケート結果は良好な結果であるが、実社会で役立つ学びになるように、授業の工夫・改善をさらに進めてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	学んだ知識・技能が、深い学びにつながるように、他者との協働的な学び（ペア・グループ）を取り入れたり、学んだ知識・技能を活用・探究する場面を設定したりし、それらが真に自身のものになるように指導していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した運動部が A 8部以上である。 B 6部である。 C 5部である。 D 5部未満である。	B 全国高校総体に6部出場（男女柔道、なぎなた、ウエトリフティング、ボート、射撃部）	昨年度より、2競技が減り6部出場となった。スポーツ健康科学科だけでなく総合学科の生徒の活躍も年々増えている。 全国大会入賞の意識の高い生徒も増え、更なる競技力向上に取り組んでいきたい。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 60%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 81%	各部各月の活動計画に基づき休養日を設け、効率的・効果的な競技力向上に取り組んでいる。 怪我等の予防・防止の面において、意識が不十分な面が見られるので、コンディションづくりへの啓発に努めたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 76%	一昨年度61%、昨年度77%年々達成度が上がってきたが76%と1%減少しており、後期のあいさつ運動コンテスト・文化祭・体育祭等の行事を通して昨年度以上の達成率を目指す。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 81%	生徒会を通してボランティアへの積極的な参加について働きかけたことにより、参加しようとする生徒の割合が目標値を超えた。後期も様々なボランティア活動を企画し、達成率を向上させたい。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 89%	学校メールに関しては、毎月の行事予定を配信するなどして情報発信に努めている。登録していない保護者もいるので、どう解消していくかが、今後の課題となる。 HPについては、機を逃さず更新していくよう、教員に意識付けをしていくことに努める。
学校関係者評価委員会の評価	運動部の活躍は、大いに称賛することができる。公立高校の中では特筆できる。学校の施設については、老朽化が進んでおり早急な改善が必要と感じる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	施設の整備・改善については、関係各署に強く要望していく。一歩ずつ状況の改善に学校として努力し、部活動における生徒の頑張りと成果に応えていきたい。また文化部の活動にも光が当たる工夫を講じていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	<p>月80時間以上の時間外勤務のある職員の削減率が</p> <p>A 50%以上である。</p> <p>B 40%以上である。</p> <p>C 30%以上である。</p> <p>D 30%未満である。</p>	<p>D</p> <p>昨年度の時間外勤務記録との比較による時間外80時間を超える延べ人数で6%の減少</p>	<p>ここ数年の働き方改革の効果で、部活動以外の業務の効率化はかなり進んでおり、これ以上の大きな時間的削減は難しい現状にあると考える。今後は部活動指導等に関わる時間の削減や効率化をすすめていきたい。（特に土日の活動について）</p>
		<p>（全教員）タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が</p> <p>A 80%以上である。</p> <p>B 70%以上である。</p> <p>C 60%以上である。</p> <p>D 60%未満である。</p>	<p>A</p> <p>7月の教育活動に関するアンケート（教職員）97%</p>	<p>働き方改革は、職員にかなり浸透している。ほとんどの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。近年で効率化が進んだ結果、意識は高いが削減される時間そのものは出てこない実態がある。</p>
学校関係者評価委員会の評価		現在の教職員の活動を見るに、ストレスがたまる状況が危惧される。以前のような教員の個人的な犠牲や負担に依存するような状況から脱していく必要がある。地域や関連機関との連携・協力を進めるべき。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		教職員の業務の効率化はかなり進み、時間外勤務の削減がなされた。今後は外部の人的・物的支援を活用し、学習活動や部活動での質的な向上と、職員の負担感の軽減を進めていく。		